

平成21年度 第9回薩摩川内市自治総合審議会 議事録

1. 開催日時

平成22年2月5日（金） 16:00～18:00

2. 場所

割烹旅館 安藤 鶴の間

3. 出席者

（自治総合審議会委員）

若松隆久会長，三本伴子副会長，今藤尚一委員，佐藤壮一郎委員，山元貞廣委員，塩田耕太郎委員，宮元泰子委員，今別府哲矢委員，大六野貞雄委員，後藤文香委員，川原裕一委員，米丸恭生委員，平木場了一委員，下野千代男委員，是沢毅委員，小島恵里委員，齊藤公子委員，橋渡よし江委員，吉満祐市委員

（事務局）

永田企画政策部長，上大迫財政課長，春田企画政策課長，中山企画政策課長代理，黒木政策グループ長，山元政策グループ員

4. 会議経過

【会長】

説明が終わった。協議第4号について，何か御質疑等はないか。前回，質問をされた方は，特にないか。

委員，よろしいか。

【委員】

勉強不足だった。下期基本計画（案）の129ページに確かに書いてある。

【会長】

委員はどうか。

【委員】

これで結構である。

パブリックコメントについてはこれから議題とするのか。

【会長】

はい。

パブリックコメントが出されて、説明があったが、この関係で何かないか。

【委員】

その他の事項で言おうと思っていたが、資料3の6番が非常に注目に値する意見だと思う。市のいろんな委員会等に出て、まちづくりの活性化等、いろいろお話しして感じたことであるが、必ず民間活力や民間のどうのこうのというのが出てくる。では、民間と行政とどう違うのか、いろいろ考えたが、民間というのは生きるか死ぬか考えてしている。自分の事業がうまくいかなければ、それで倒産、はい終わりというのがある。その中でどうやって生き残るのかという知恵を市で出してやっていく。これを薩摩川内市の運営、薩摩川内市が企業体だということを考えれば、行政は経営者なのかなと思う。その中で、市の職員は身分が保障されているので、生きるの、死ぬのというのではない。税収が下がったから給料が下がるという話もない。言うとは失礼になると思って躊躇したが、やはり緊張感が欠けるところがある気がする。地域の活性化というのを見ていると、やはり中心になる人がいて、その人がいろいろ知恵を出し、周りをたきつけて盛り上がってやっていくところはうまくいっている。そういう人がいないところは決してうまくいっていない。では、それを民間がするのか、行政がするのかといえば、どちらでも構わないが、行政にしてもやはり市民であるので、そういう意味で、恐らく、この地域で民間で知恵を出せとか、頑張れとか言っても、なかなか頑張る人がいないのではないかと思うので、ぜひ火をつけて、たきつけて、少し燃え上がるころまで行政が中心になってやっていただきたい。だから、こういう計画を立てたら、本当に実現できるような方策なり、民間に対する支援なりを真剣に考えてやっていただきたい。行政が一生懸命やったから、薩摩川内市は周りの地域と比べて非常にいい地域だなというふうになっていくことを期待している。少し言葉が過ぎたかもしれないが、そのぐらいの覚悟でやらなければ、誰がするのかという話である。

我々もこういう審議会に出てきても、自分の仕事とは一切関係ない。それはちょっといけないことであるが、そういう意味で、朝から晩まで給料をもらって薩摩川内市のことを考えているのは誰かということになれば、答えは自ずから明らかである。この計画が策定されて、すばらしいまちになったなという結果をぜひ出していただきたい。言葉が過ぎていたらお許しいただきたい。

【企画政策部長】

ただいま委員から御指摘、御指導をいただいた。御趣旨の点については、これまでも多

く市民の方、あるいは議会や各種団体を通じて厳しい御指摘ということで、私どものほうに届いている。市長のほうにも当然届いており、新市長就任後も、職員に対して勤務のあり方、公務員のあり方については再々指導がある。

御指摘のとおり、私どもは全体の奉仕者としてやっているわけであるが、民間の方から見ればどうしても感覚に欠ける、発想に欠ける、あるいは緊張感が足りない、甘えがあるといった御指摘も聞いており、しっかり受けとめたいと思う。御意見のとおり、市職員も一市民である。職員はいろんな行政に携わっているので、地域に還元できる技術やノウハウを知り得ているので、広く地域に還元して、地域を引っ張っていく必要があると思う。

自治基本条例の中にも、職員の責務としてしっかり書いてあり、職員が持っている能力・技術等は積極的に地元に還元しなさい、そして地域活動にも参加しなさいということが明記されている。これまでも職員にお願いし、やってきていると思うが、まだ十分でない点は十分承知しているので、さらに周知を図ってまいりたい。

【委員】

市の職員の自治会加入の状況はどうなっているのか。調査等はしているのか。

【企画政策部長】

市職員の自治体加入については、正確な実数は手元にないが、1,210名の職員のうち、残念ながらいろんな事情や考え方によって、20～30名程度未加入がいたという数字を半年ぐらい前に見たことがある。市職員は市民にも加入を勧めている中で、市職員が入っていないのはおかしいということで、市長からも総務当局を通じて、所属長を通じて入るように督促されているが、残念ながら100%というところには至っていない。総務当局とも連携をとりながら、市民の模範となるべき、率先して加入しなければならない立場であるので、さらに努力を重ねたい。

【委員】

要望であるが、100%までの加入はできないかもしれないが、全員加入ができるように努力していただきたい。

【会長】

ほかにないか。

なければ、パブリックコメントについては、後ほど目を通していただきたい。

それでは、以上で協議第4号に関する全ての項目について、審議を終わる。

次に、協議第5号に入る。

第1次薩摩川内市総合計画下期基本計画（案）に対する答申案についてを議題とする。事務局から説明をお願いする。

～～～ 説 明 ～～～

【会長】

説明が終わった。協議第5号について御質疑等を賜りたいと思うが、これについては章ごとに区切らず、一括して質疑を受けたいと思う。この文言等でよろしいかどうか、お諮りしたい。なお、これについては事務局と正・副会長のほうで一応すり合わせた案として御呈示している。御質疑等があれば、お出しいただきたい。

【委員】

本日を入れて9回の審議会を開催されて、さまざまな意見を出させていただいた。市長からの諮問を受けて答申を行うわけであるが、文言の中で「十分審議を重ねた結果、おおむね適切であると判断したので」とあるが、答申された文言そのものに対するというふうには受け取られると、この審議会としては文言の修正あるいは追加をしているので、そのことを記載すべきではないかと思う。「十分審議を重ね、文言の修正並びに追加をした結果、おおむね適切であった」という表現にしたほうがいいのではないか。

2点目は、ずっと審議を重ねて、総合計画の下期の基本計画というのは大事な時期であるということ、いろいろな面で申し上げている。特に、合併特例債が切れる後期5年間であるということから、合併の特例を十分に生かして、合併効果を上げられるように努力していただきたいという文言を挿入したほうがいいのではないかと思う。合併特例というのは、交付税は10年間で合算額、あと5年経過措置の期間もあるが、それが切れる。それから、合併特例債事業があと5年で切れるという期間であるので、その辺を文言として挿入して、合併効果が上がるような事業展開をされたいという文言を挿入してはどうか。

【会長】

ただいま2点の修正等の意見があった。今、なるほどなと思う。最初の鑑のところについては、皆さん方から200を超える意見もあったし、この下期基本計画（案）そのものがいろいろ修正されたり、追加されたりしている。私としては、委員がおっしゃるとおり、「文言の追加・修正等を重ねた結果」という表現でもいいのではないかと思うが、事務局としては何かないか。

【企画政策部長】

私どもが言うところではないが、鑑文の中に、「十分審議を重ね、一部修正したところもあり、修正した結果、おおむね」という表現にしてほしいということである。

2点目は、あと5年すると交付税措置が段階的に縮減されるということであり、財政課長も説明した。そういうことも付記すべきではないかということであるが、1枚目の

にはないが、後ろのほうの意見の最後に「交付税の大幅な減少が予想される」とあり、これがまさに5年経過後である。そうした中、人口減少等、さまざまな影響を勘案した行財政運営を推進されたいということで、意見という形で出ているのでいかがでしょうか。

【委員】

そうであれば「さまざまな意見を述べながら」とか、そういう文言を、そうでなければ原文のまま了承したような審議が進んだような印象になるといけない。この審議会ほど総合計画に対して活発な意見のやりとりをした審議会はなかったのではないかと思うぐらい、さまざまな意見が出されて、大分修正や追加をしてでき上がっている。その辺を少し、会長・副会長に文言の整理は一任するが、審議会の意見が活発に出されたという文言を追加する形でしてはどうか。

2点目については、持続可能な財政運営の推進の項の地方交付税の大幅な減少が予測されるというところに、合併特例期間中、交付税もそうであるが、合併特例債もそうであるから、「合併効果が上がる施策展開を」ということをどこかに挿入していただきたい。市民から見ても、合併の特例期間が切れるということは、合併効果をその間に上げなければならないことであると思う。昨日、今日の新聞に、薩摩川内市の合併後の現況ということで、連載で書いてある。それだけに、合併効果をどのようにして上げるのか、特例期間中に合併効果を上げなければならない。合併してよかったと言われるようにしていかなければならないという感じがする。文言については、会長・副会長に一任するが、そういう文言を挿入したほうがいいのではないか。これは意見なので、整理していただきたい。挿入するかどうかは、委員の皆さんにお諮りしていただき、文言については一任する。

【会長】

2月中旬に市長に対して答申を行うが、基本構想のときもだったが、文言に書いていないこともたくさん発言している。これまでの審議会にないような活発な御意見・御要望等が出て、けんけんがくがくの議論があったということや修正等が行われたことも口頭で言っている。答申の文言としては、ここにそういうものを追加するかどうかについては一任させていただきたい。口頭では市長に、中身についてはいろいろな意見が出たということは言っており、市長も事務局のほうから前もって聞いていて知っておられる。これは正・副会長に一任していただきたい。

合併の特例期間の関係で、あと5年で終わるということであるが、第8章の都市経営のところ、それを挿入するかどうかについては、地方交付税の減少ということでしているので、特例債について文言として追加するかどうかについては、もう少し考えさせていただきたい。

【委員】

今回の総合計画は、合併特例が終わる10年間とダブっている。合併効果が上がる施策展開をされたいというのは、市民にとって合併してよかったと言われるようにしなければならぬという思いがある。合併したが、全然変わらなかった、合併しなければよかったという議論もあるので、合併してよかったと言われるような施策展開を行政に対して審議会がしたということで、「合併効果が上がるように」ということをどこかに入れたほうがいいのではないかと思う。

あとは、意見として、会長・副会長に文言についても強調していただきたい。

【会長】

承知しました。

【委員】

私も文言の修正・追加ということであるが、部長がおっしゃるようないろいろなお考えもあるので、それでいいと思う。下期基本計画の案ができて、私たちは審議をしたが、次にこれを誰がやるのか、また進捗状況はどうかということ、市民参加ということで、定期的なこういう委員会なりをつくって、一緒に進めるべきであると思う。もちろん、各部署ごとにやっていたらいいことはわかるが、そこでまた市民の関係団体や関係者も入っておられると思うが、これは総合計画なので、全体の進捗状況や確認を継続して、見守って、参加させていきたいと思う。

【会長】

貴重な御意見、ありがとうございました。

【委員】

言葉の意味を教えてくださいたいが、文章の中に「～されたい」「～られたい」という言い方があるが、私はこういう言い方が不慣れでよくわからない。これは、しなさいよということを優しく言っているのか、ただ努力義務を求めているだけなのか。こういう言い方をした側の意図があるが、受ける側の取り方がきちんと一致するのか、説明していただきたい。

【会長】

これについては、行政用語的なものかもしれない。「～されたい」というのは、していただきたいという要望的な言葉である。命令口調ではない。

【委員】

要望としてはちょっと弱いのではないか。

【会長】

しなさいという命令的なことでは、市のほうとしてもいろいろ検討しなければならない事項等があるだろうから、強い言葉ではなく、していただきたいということである。命令口調のほうがいいですか。

【委員】

いや、わからないが、これだけ時間もエネルギーもかけてやってきて、「できたらうれし
いんだけどな」というぐらいにとられたら、寂しいものがあったので。

【会長】

市のほうは、この要望については、今後これを第一義的に考えて施策を展開していくと
思う。命令的な口調でなくても、こうしていただきたいという願望的なものがあるって、「～
されたい」と表現している。

【委員】

女性50人委員会では、提言だから、言うときには「～すべきである」、しなさいという、
結構強い言い方で書きなさいと言われた。それに比べると優しいと思った。

【企画政策部長】

会長のほうで、「～されたい」という行政用語について、一般的な考え方を説明していた
だいたが、そのとおりである。ただ、「～されたい」というのは、「できればしていただ
けないでしょうか」という弱いものではなく、会議の中ではこうしてほしいんだよ、努めな
さいよという意味も含まれている。「しなさいよ」というところまではいっていないが、こ
ういう方向でまとまったから、その方向で今後十分研究し、努力してくださいということ
である。「してほしいな」というより上のレベルである。そういうつもりで我々行政マンは
理解している。

いずれにしても、この附属機関の中で審議していただき、附帯意見として示された幾つ
かの項目については重みがあるということで、女性50人委員会もそうであるが、出され
た意見については、言葉の表現は別として、重く真摯に受けとめるというスタンスに変わ
りはない。

【会長】

文言の「～されたい」という部分については、委員はおわかりになったか。

【委員】

はい、ありがとうございます。

【委員】

答申についてはそれでいいと思う。後は、どれをどうするかという話であるが、やはり市民みんなにちゃんと伝わるように、こういう立派な冊子をつくってあるが、私も委員になってから初めて見たので、ダイジェスト版で出されるらしいが、もう少し市民皆さんに行き渡るような方法を考えていただきたい。

それから、行政の言葉は理解しづらいところもあるので、これを要約して、本当にいいことが書いてあって、言うことがないぐらい全部のことが入っているので、これを10分の1ぐらいにまとめて、言葉を短くしていただいて、それを広めていただきたい。

【会長】

計画書は何部ぐらいつくるのか。配布先はどうなっているのか。一般市民はどのように目を通していくのか、説明していただきたい。

【企画政策部長】

計画はでき上がったが、いろんな団体、地区コミにどのように進めていくのか、知ってもらって、行動に移すことが大事という意見であった。周知については、議会の特別委員会の中でも、市民協働というからには、関係団体の理解と協力が絶対必要だということで、周知についても同じような意見があった。現在、計画書の作成については、本編と概要版を各2,000冊つくるということで予算計上している。部数が限られているので、配布先が限定されるが、広報薩摩川内等を使って、ページ数が限られているが、周知を図ってまいることは計画している。広く知ってもらうためには、いろいろな手法を通じて周知を図る必要があると思っているので、研究させていただきたい。

【会長】

よろしいか。

【委員】

はい。

【委員】

項立てで第1章から第8章までであるが、第1章の「地区コミュニティを活かし地域力を育むまちづくり」とあるが、ここは「地区」という文言が省かれているので、「地区」は除いたほうがいいのではないかと。

第6章の「都市力を創出するまちづくり」で、3行目に「交流人口の増加策について」

の次に「ついても検討されたい」という文章がいいのではないかと思った。

それから、①から⑧までであるが、下期基本計画は章立てになっているので、1章、2章というふうにしてもいいのではないかと思った。

委員が今日は欠席であるが、これについて協議してもよいか。

【会長】

後でするつもりだったが、いいです。どうぞ。

【委員】

第6章で道の駅の設置に取り組みたいとなっている。国道3号には、伊集院のチェスト館と阿久根の道の駅がつくられており、42号では本市のほうでは遊湯館やゆったり館のところにあるが、高江のところで全線開通して、甌島の海産物や農産物を販売することはありがたいと思うが、この計画は5年計画なので、できれば阿久根や串木野からの車の流入台数や利用状況を勘案して、答申の中では⑥で定住促進対策の研究とか交流人口の増加としてあるので、ここに明記すると次の実施計画でも大変だと思う。ここは網羅されている形であるので、原案のほうに賛成したい。⑤については、皆さん方で御協議いただければと思う。

【会長】

意見があったが、1番目については、最初の文言の「地区」を消すのか。

【委員】

1章では「コミュニティ」になっている。

【会長】

「地区」は除いたほうがいいということであるが。文言の違いである。これはもう除くことにしたい。

それから2番目は。

【委員】

どちらでもいいが、主語が2つあるような気がした。

【会長】

「交流人口の増加策についても」ということでよろしいか。

【委員】

はい。どうかなのと思ったので。前回の答申で①にしてあればそれでよいが、初めてだったので、1章から8章までと。

【会長】

番号は、①よりも1章、2章で。これは簡潔にしたわけであるが、どうですか。

【委員】

重みがなかったものですから。

【企画政策部長】

特に私どものほうは、どちらでも。

【会長】

わかりやすい表現で、ちょっと検討させてほしい。

それから、道の駅の関係で、委員が欠席であるが、2点出されている。(6)については、「道の駅」については市内にもそういうものがあるわけであるが、これは西回り高速道の高江インターを想定した道の駅ということで質問があった。これについては、個別的なものについては、私も余り載せる必要はないのではないかと思う。皆さん方に御意見をお聞きしたいが、⑥については追加するのはいかがか。

【委員】

委員から出てきたのは経緯がある。本当は西回り自動車道が猫岳のところを通過して出水に向かっての計画があった。当初計画では、猫岳のところにサービスエリアをつくって、下に河川公園を作る構想が一時期あったが、それが下流側に移って、立ち消えになった。そういうことで、最初はあそこにパーキングエリア、サービスエリアを通過して下の公園に入っていくような、佐賀県に同じようなものがあるが、そういう構想があった。湯田・西方の方々も、パーキングエリアかサービスエリアを海岸線のきれいなところにつくるという要望もある。高江の場合はそれがなくなったので、インターを下りたところに道の駅という発想で委員はおっしゃっている。

個別のものをそう書いたら、どこもかしこも、これも入れて、これも入れとなるので、それはちょっと、交流人口の増加ということが書いてあるので、それで代えて、そういう個別の意見は地域として当局に意見として申し上げればいいのではないかと思う。余り個別のものを言うとあちこち出てしまう。要望はしなければならぬだろうが、総合計画の中に入れる意見として申し上げるのはどうなのか。私も委員と同じ意見である。そういう趣旨で、当局にそういう計画を進められたいという意見を追加してでも、言われて、総合計画の答申書にはなじまないのではないかと思う。

【委員】

私も今の御意見のとおりだと思う。拡大解釈をすれば、これは入っているので、個別はまたやっつけていけばいいと思う。ただ、⑤、⑥は将来の薩摩川内市にとって大きな起爆剤になるような事業であると思う。日本全国で火力・水力・原子力の発電があり、エネルギーの供給地でもあり、畜産農業があり、漁業、食料の供給地でもある。この⑤、⑥を合わせたら、大きな事業ができるのではないかと思う。今、九電のほうでは、ほかの地域で太陽光とか、風力とかいろんなものを手がけており、放射線を使った治療ということで、玄海に施設をつくっている。そういうエネルギー関係があるので、特区をつくるぐらいの気持ちで広めていけば、大きく事業をつくっていけばと思う。

⑥に合わせて、クリーンなエネルギーで運営している地域の特産品ということで位置づけて、ここは道の駅となっているが、甌からの海の駅、道の駅と合わせるような構想とか、個別で書く必要はないが、委員がやっていらっしゃる事業は、本当に将来楽しみだなということでもいつも聞いている。

【会長】

それでは、⑥の道の駅の関係については、皆さん方は個別的な事項については、基本計画の答申書にはなじまないということもある。本人がいらっしゃらないが、後日、本人とも協議していきたいと思う。この分については掲載しないということによろしいか。

【各委員】

はい。

【会長】

それでは、⑤について、エネルギー関連などの企業誘致を図りたいということであるが、これについては新エネルギーの開発の関係、それから企業誘致の関係等もいろいろ計画書の中に入っている。⑤について、ほかに御意見はないか。

企業誘致関係の文言はどこに入っているか。何ページか。エネルギー関係は、恐らく新エネルギーの関係であると思うが、どのような考えであるのか。

【企画政策課長】

まず、新エネルギーについてである。下期基本計画（案）の109ページの（3）で、新エネルギーというのは、太陽熱、風力、水力のことであり、現在企業誘致の推進方針を立てているが、その中でも4つの柱の1つとして位置づけられている。そういうことから、109ページでは新エネルギー関連産業という形で誘致活動を進めますという形で謳い込んだところである。

【会長】

わかった。

109ページに企業立地の促進，77ページに新エネルギーの導入の促進が出てくることから，恐らくこれを出されたのではないかと想定しているが。

【委員】

委員がこれを出されているのは背景がある。峰山校区でやっている柳山アグリランドで風力発電の設置をしたいという強い意向があって，一時期それで進められていたが，かなりの資金が要するというので，少しトーンダウンしているようである。これまで，旧川内市時代から新薩摩川内市では，エネルギーのまちということで，火力も原子力もあり，日本の各地にエネルギーのまちということで売り込みをすべきであるという意見が強かった。だから，エネルギーのまちをつくれということで，いろんなことをせよということであったが，それもだんだんトーンダウンして，最近「エネルギーのまち川内」という言葉が余り使われなくなっている。さかのぼると，「港に夢を託して10万都市」というのが旧川内市時代にあったが，時代によって都市づくりをするためにいろんなキャッチフレーズを考えてやってきた。ただ，今はどちらかというと，余り夢を掲げてキャッチフレーズをつくっても，鹿児島県も日本の南の玄関口ということをしてPRして，いろんなことに取り組んだ時期もあるが，キャッチフレーズは市民にわかりやすいものをつくったほうがいいという意見と，余りキャッチフレーズばかり掲げていけないという意見とさまざまある。徳田委員がおっしゃっているのは，「エネルギーのまち」というのを強く打ち出してまちづくりをしたほうがいいのではないかとこのことでは言われていると思う。エネルギーのまち，原子力だけが浮き立っているが，他の新エネルギーも含めてエネルギーのまちだという，「みずのまち川内」ということを掲げたりしているが，水力も含めて，そういう格好で出されているのではないかと。これは，市のほうで，どのようなイメージを描いて都市づくりをしていくのか，そこが一致しなければ，なかなか難しいのではないかと。思う。

【会長】

本人の意見については，意図がはっきりしないが，委員の言葉を借りると，そういったことがちょっとあるのかなと考える。ただ，一般的には新エネルギーの太陽光を初めとする新エネルギー関連産業の誘致や，進出可能性がある企業への誘致活動を言っているのかなと思う。こういう文言であれば，計画書の中に出てくるので，これらを含めて文言の追加等をしていきたいと思うが，いかがか。

【委員】

入っているから，いいと思う。

【会長】

太陽光や風力も含めた新エネルギーの開発にも取り組んでいくという姿勢が市のほうにもあるので、文言として追加することはいかがか。

【委員】

私はエネルギー関連というのは、原子力発電所のことが重なってしまう。3号機がまだはっきり決まったわけではないので、両論あると思う。それをここに書くということはどうなのか。例えば、事務局がおっしゃったように企業誘致ということであれば、これからも必要なことであるし、理解できるが、「エネルギー関連」と書くと引っかかるものがある。できれば避けたほうがいいのではないかと思う。

【会長】

基本計画の77ページをごらんいただきたい。この部分をとらえていけば、別に問題はないのではないかと思う。新エネルギーということなので、ここでは原子力ということは一切出てこない。「太陽光・風力などの自然エネルギー、ごみ焼却熱などのリサイクルエネルギー等の新エネルギーの導入」ということで、ここでは新エネルギーの定義等も書かれているので、「新エネルギー」という言葉を使えば通っていくのではないかと思う。皆さん、いかがか。

【委員】

やはりここは「新」を入れたほうがいいですね。

【会長】

「新」を使っていくということで、皆さんよろしいか。

【各委員】

はい。

【会長】

それでは、この文言については、御一任願いたいと思う。
そのほかにないか。

【委員】

私が付け加えたいのは、2ページの2番、健康で共に支え合うまちづくり、保健福祉のところ、少子化の問題は今後の日本を考える上でも大切な問題であるが、3行目までの

文章の中では、少子化対策というか、具体的に言うと子育て支援について見えにくいと思う。薩摩川内市において、市長も重要に考えて、4月から中学生まで医療費無料化の制度ができるが、そういうことを評価するという意味でも、例えば子育て支援についてもさらに推進されたいとか、そういう「子育て支援」という言葉を加えていただければ、この部分が充実すると思う。

【会長】

今、文言の追加等が出された。子育て支援等については、特に入れていなかったが、おっしゃるとおりであると思う。これについて、御意見等はないか。市のほうもいろいろ対策を、他市に先駆けて手を打っている。国の政策等もいろいろ子育て支援を考えているようであるが、この部分について挿入するかどうか、御意見はないか。

【委員】

賛成である。この審議会の中でも、ここについては大変論議された。また、事務局も議会のほうに、まだ発表になっていないということで、鹿児島県でナンバーワンで中学生まで医療支援をするということであるので、小島委員の意見に賛同する。

【会長】

子育て支援の関係について何かないか。よろしいか。

【各委員】

はい。

【会長】

これについて、文言を挿入していくという形でしていきたい。
事務局のほうで何か案があるか。

【企画政策課長】

それについては、読み上げたいが、この中に1つ挿入ということではなく、1つ追加したいという形でいかがなものかと思っている。「子育てと仕事が両立できる環境づくりや子育てに要する経済的負担の軽減など、子育て支援について、より一層の対策を講じられたい」という形でいかがなものかと思っている。

【会長】

委員、よろしいか。

【小島委員】

はい。

【会長】

この文言については、私どものほうに御一任させていただきたいということで、追加することに決定する。

ほかはないか。

【委員】

2点であるが、1つは全体的なものの中で、これを見ると計画に謳ってあるが、総合計画を推進するに当たって、どうしても人材、人をどうやって育てるかということがポイントになるので、それをぜひ項目の中に入れていただきたい。

それから、2ページの4番のところで「強く要請されたい」という文で終わっているが、要請するだけでいいのか。「要請し、確認されたい」という言葉を入れていただきたい。

6番は、3つとも「検討されたい」「検討を進められたい」「検討されたい」で、今から検討かという話である。せめて「検討・実施されたい」という文言を入れたほうがよいのではないか。

【会長】

人材をどう育てるか、人材育成について何も無いのではないかということであるが、教育・文化の関係である。生涯学習のところで人材育成は謳っているが、ここの文言ではいけないということか。どういう人材ということか。

【委員】

地区コミュニティ協議会をリードする人とか、まちづくりとか、地域をリードしていく人材という意味である。こういう計画を実施するに当たっても、それを推進していく。行政も市民も関係なく、行政の中でもいいだろうし、民間の中でもいいだろうから、リーダーシップを発揮するような、それに目覚めた人というか、そういう人を育てていくことが大事ではないかと思う。

【会長】

市全般的な人材の育成ということである。職員もだが、職員の意識の高揚も含めて、一般的な人材の育成というのは重要な文言であると思う。何か委員の御意見等があれば。

【委員】

ちょっと関連するが、こういうことをしてくださいと言った後、とりあえず委員会をつ

くりました、こういうことをしていますというところまではよいが、それを本当にちゃんと機能するようにやっているのかどうかチェックする、それが市議会になると思うが、市議会だけなのか自分でもわからない。人材育成や計画を実行していく、その経過を見たり、意見を出したり、何かチェックする機関が必要であると思う。それをここにを入れるべきであると言っているのではないが、人材なり、人の力、市民の力をどのように今後の計画実施につなげて生かしていくかについて、余り述べていないと思う。そこまで考える余裕があるかどうかかわからないが、意見を申し上げておく。

【委員】

関連して。この総合計画の下に基本計画の下に実施計画ができるが、実施計画については、議会に進捗がどのように進んでいくかということで、四半期に1回報告してもらうようにしていると思う。確かもらっていると思うが。

【事務局】

1回だけ、3月に全員に配るような形では出している。

【委員】

ほかのところは、行政評価委員会を県もつくっていると思うが、そこで主要な事項だけ、事業の進捗がどうなっているのか協議している。細かいものはやっていないと思うので、どういうふうにするのか。なかなか目に見えて進まないの、下期基本計画は5年間であるが、目に見えてどのぐらい進んだか、なかなか数値で表すことができない。そうすると、皆さん方がどう評価しているという委員会でなければ、なかなか実績を数値で表すことは難しいので、評価委員会をつくるのかどうかといった議論になるのではないか。その辺について、行政はどのように考えているのか、示したほうがいいと思う。

【企画政策部長】

確かにこの計画をつくって、それがどういうふうに展開されて、どういう成果が出たのか市民に知ってもらうことは大事であると思う。ただ、今、幅広い分野について、定期的にシステムとしてチェックするような行政評価機関等はないのが事実である。実際、どういう形でできるのか。先ほど委員からもあったとおり、議会の中で単年度予算や各種事業がどういう進展をしていくのかという監視的なものはあるが、現在のところ、市民団体が全ての分野をチェックすることはできないと思う。ただ、私どもがすべきことは、企画だけではできないが、農政部も建設部もあるが、それぞれの取り組みをいろんな形で市民の皆様にご覧いただき、広報活動を充実していくことは大事ではないかと思う。橋渡委員、今別府委員から出された意見については、今こうしますということはいえないが、研究させていただきたい。

【委員】

意見が出されたから、そういうものでしかできないのではないかという意見である。しなさいと言っているのではない。

【会長】

次は、人材の関係であるが、地区コミの関係でいけば、多様化する活動への一層の助言等をしてほしいということで、人的なことも含めて、市の助言・支援策を包括的に入れたつもりだったが、この中でよろしいかどうか。

【委員】

人を育てるということは、もう全体に共通することで、本当の基礎にある部分で、それが一番大事であるが、お読みすると、その中にいろんな支援とかの文言の中に含まれていると解釈している。ただ、「人は石垣、人は城」であるから、その地域にどういう立派な人材がいるかによって、その地域は発展するか、あるいは廃れていくのかという命運を握っている。その辺を常に念頭に置いて、松下政経塾ではないが何らかのものを、基本的に言うところ等が中心になって、若い人がいろんなアイデアを出して、地域を盛り上げていくという方向性は大事だと思う。もちろん活動はされていると思う。人なくして地域の発展はないと思う。同じ材料でも、どう料理するかによって違う。

【会長】

それから、第4章を「強く要請し、確認されたい」ということで、「確認」を入れてほしいということであるが、今回の原子力の点検ミスで死亡事故が発生している。これは点検中に起こったということで、どうしても「点検」という文言を入れなければならないということで入れた。強く要請はされており、今後十分気をつけてほしいということで市のほうは恐らく要請して、県も恐らくされたと思うが、市の対応はどうなっているのか。

それと、その後、確認というのはどういう表現になっているかわからないが、その辺はどうなっているか。

【企画政策部長】

先週発生したトラブルというか、残念ながら1人お亡くなりになったが、これに限らず、これまでも軽微なトラブル事故はあった。その都度、市長から事案によって嚴重な要請文書を出している。今回も週明け早々に要請文を出している。そして、市として立入調査もしている。今回に限らず、そうした要請対応はしてきており、要請するだけでなく、点検の結果を確認作業も、要請すると九電の社長から原因と再発防止対策等が書面で来るので、その内容確認を市と県で行っている。不明な点は、現地に行って確認する作業はして

いる。それについては、前段にある情報公開をどういう形で地域住民にしているのかということを含めて、要請だけでなく、その後のフォローもしている。

【会長】

要請には、当然確認がついて行くと思うが、確認については文言は特に要らないのではないかと思うが。

【委員】

読む人によっては、要求されるだけなのかという話である。

【会長】

もう強く要請しているので。

【委員】

ただ、要請するのと確認するのとは本来的には別である。言うだけ、言いつぱなしという話なのかということである。確認しているのかという話である。

【会長】

それは確認がついているということであるが。

【委員】

前提に立って言っているということであれば、結構である。

【会長】

それから第6章について、「検討されたい」ということばかりであるが、「推進されたい」とか、そういう文言もある。この文言については、検討するだけかということであるが、若干修正するかもしれないので、一任させていただきたい。

【委員】

時期的に、もう検討している時期ではないだろうという話である。

【会長】

今、もう検討しているんですね。

【委員】

だから、もう実施していかなければならないだめだということである。

【会長】

わかった。表現法については、全般的に変えさせていただくところがあると思う。

【企画政策部長】

今、検討されたいとか、スピード感がないのではないかという御指摘である。私どもも改めて見て、例えばコミュニティバスやデマンド交通の関係については、今検討をするのではなく、まさに入来でモデルとしてやろうとか、もう前向きに取り組んでいるので、ここは「検討されたい」は「取り組まれたい」とか、次のステップに向けての意見ということで、文言を変えることは差し支えない。

そのほか、1番目のポツについても、検討ではなく、踏み込んだ表現に変えていただいても結構である。そのほうがよろしいと思う。

【会長】

総体的にいろいろと、結びのところについては検討する余地があるので、もう一回事務局と協議をさせていただいて、文言修正について全般的に見直しを行いたい。貴重な御意見、ありがとうございました。

ほかにはないか。

【委員】

この場にはなじまないと思うが、案の2ページのスポーツ合宿で、地域の振興、受入態勢の中で、いろいろな球団とかバレーボール団が来ているが、その都度、「何かキビナゴでもブリでも提供してくれよ」という要請がよく来る。そうであれば、予算化されて、私も何回か提供したことがあるが、何かそういうものを行政のほうで予算化されたら、私はありがたいと思う。

【会長】

これは漁協だけの問題ではなく、恐らく農業もそういう要請があろうかと思うが、事務局のほうで何かないか。

【企画政策部長】

市長のほうでも、こうした合宿、来ていただくプロスポーツチームに対して、金額は別として、肉を届けたり、ウナギを届けたりしているところである。ただ、行政だけではなく、特にキビナゴは珍しいので、市だけじゃなくて、漁協とか市民団体も歓迎しますよという姿勢を先方に伝えるために行っているものである。御無理を言うとあれですが、できるだけ御負担をかけないように気をつけたいと思う。

【委員】

案の5番目であるが、「総合的な情報を積極的に発信するようシティセールスに努められたい」ということで、本格的にシティセールスも始まるが、前はエネルギーのまちとかいうことで、自分のまちをどんなまちだということを表示することは今こそ必要だと思う。夢や希望は、今こそ、そういうことを掲げるまちであってほしいと思う。理念のほうもたくさん書いてあるが、一言で言えば、今度できた市民歌に「こどももおとなも いきいき」というのがあるが、そういうわかりやすいものを、子どもも高齢者も医療も教育も全部入っていくと思うが、そういうものとか、ダイジェスト版でいいので、短くしたら結構何か入ると思うが、もしわかりやすいものがあれば。

それから、シティセールスのほうでどんなまちであると案内する。甌にも行くが、レーダー施設とか、防衛施設もある。港に行けば原子力発電所もあるし、煙突も見えていて火力発電もある。上流に行くと水力とか、畜産農業、漁業を含めて、食料の供給基地であり、エネルギーの供給地であり、防衛施設もあり、都市あり、田舎あり、離島あり、自虐的な意味ではないが少子高齢化が一番進んでいるような気がする。だから、日本の縮図であるということ、大きく言えば、ここが本当に日本復活のモデルとなり得ると思っている。そういうような元気のある、夢や希望を掲げられるようなものを一緒につくって、これに入れられなければ次のものでもよいが、そういう活動を何とか始めていこうと思っている。

【委員】

関連して、都市分類をするときに、旧川内地域では田園工業都市と言っていた。今でも合併して、田園工業都市の分類になるのか、どういう都市の分類になるのか。都市の形態を表すようになっているが、合併してどのような分類になっているのか。それに基づいて、都市のイメージを前面に出すようにしなければならない。

先ほどおっしゃるように、キャッチフレーズでそのまちのイメージがパッと湧くような、何を目標しているのか、どんな都市を目指しているのかわかるようなことも考えなければならないと思う。何を重点に都市づくりをするのか。例えば文化都市を進めるとか、いろんな都市づくりがあると思うが、そういうものも示したほうがいいのではないかと思う。すぐ回答してほしいというのではなく、そういうものも考えて、市民が一緒になってそれに向かってまちづくりをするようなものを考えるべきではないかという、今藤委員と同じ意見を私も持っている。

【会長】

シティセールスに関連していろいろ意見が出た。市の将来目標として、市の形態として薩摩川内市はどういう都市形態になっているのか、目指しているのか。総合計画の中でもわからなかったが。

【企画政策部長】

基本的なところで御回答できないのは心苦しいが、旧川内市時代は人口規模とか産業構造によって田園工業都市だった。合併して2の6の分類とは違っている。どういう名称かについては、ちょっと時間をいただきたい。

両委員から出た、薩摩川内市のイメージがすぐ湧くようなキャッチフレーズという提案については、簡単な言葉でわかってもらえるようなものを強く打ち出すようにという趣旨であると思う。お答えにはならないかもしれないが、本市の将来像については、「“地域力”が奏でる“都市力”の創出」とか「市民が創り 市民が育む 交流躍動都市」といったものが総合計画の中では謳われている。

もう少し親しみがあるようなもので売り出すべきだという御趣旨であると思う。

もう1点は、昨年5月に発表したが、本市のロゴマークと、キャッチフレーズとして「薩摩川内市スピリッツ」によって、現在市内外に発信している。なかなかカタカナでわかりにくいのが、今は薩摩川内市スピリッツの「心」というイメージのロゴマークで打ち出していくという方向性にあることは御紹介申し上げる。

それから、シティセールス、ブランドを強く打ち出すためには、行政だけではとてもできるものではない。来られたお客さんが、本当にそのまちはいいと思うのは、例えばタクシーに乗って、あるいはお店で応対してくれた方、あとは市民や関係団体が同じ方向に向かって薩摩川内市を売り込む姿勢がなければ定着しないし、長続きしないということを専門の先生からも聞いているし、確かにそうであると思う。これは、新しい部署で現在作成中であるが、市民向け、関係団体向けに薩摩川内市を同じ目線で、同じベクトルで売り出すためのわかりやすいマニュアル等も今作りつつあるので、そういうものを中心に協力をお願いしていくことを考えている。それでいいというわけではないが、そういう取り組みも進めようとしているので、御理解いただきたい。商工会とか、いろんなところでシティセールスに取り組んでいただかなければならないので、ぜひ協力をお願いする。

【会長】

よろしいか。

では、時間がまいったが、あと1点だけ意見をどうぞ。

【委員】

前にも、ゾーンのことをちゃんと研究してほしいという話をしたと思うが、それぞれの地域ごとの、行政の戦略というか、発展戦略みたいなものが地域の住民にわかるようにするというか、その辺をしっかりとやってもらって、この地域としてはこういう発展の仕方をするんだとか、していきたいというところを、住民の住んでいるところが島であったり、田園であったり、都市部であったりすると、どこを中心に改善していけばいいか、発展さ

せていけばよいか、それぞれ違うところがあると思う。そういうものを吸い上げていただけるようなシステムを、市民も新しく主体的になっていかなければならないが、行政も新しく主体的な行政になっていかなければならないと思うので、そういうシステムをこれから考えるような方向で動いていただければうれしいと思う。

【会長】

貴重な御意見であった。当局の方は何かないか。

【企画政策部長】

今、委員の御提言にこうしますというのは、明確なものはないというのが正直なところである。そういうものができればいいと思うが、今のやり方として、1つは、各地域を3つの文化ゾーンに分けてお示ししている。それは抽象的であり、里の地区がどうこうというところまで具体性はない。イメージである。甌島はこういう形で発展していったらどうかという提言、あるいは中心市街地はどうかという、ゾーンごとのイメージを提示している。

おっしゃるのは、それぞれ個別の地域がどのように発展していくのか、進めるような仕組みがほしいということである。今はないが、1つの手法としては、各地区で地区振興計画をつくっていただいているが、基本的には自主的な、地域で取り組むのがベースであるが、行政の支援や行政だけではなく、いろんな関係団体の連携が必要であるので、まずは地区の振興計画をベースに、行政がバックアップ支援できるところは推進していくという形が今はあるのかなと思う。それで十分かどうかは別であるが。

【委員】

例えば地域を回すためのシステムということで、地区コミュニティ協議会は地域を回すための地域の行事とか、今まで培ってきたいろんな文化とか、そこで動いている人たちの風土とか、地域力とか、そういうものをある面で高めていくようなものと、新たにまたどういうふうな形で発展させていくかという2つの課題があると思う。地区コミュニティが持っているのは、むしろ今の地域の地域力のようなものを崩さなかったり、発展させていったりということと、もっとその力を使って新しい方向性をつくっていく。例えば里で言えば、里が今まで持っていた力を落とさないように、レベルを落とさないようにしていく地区コミュニティの活動というのと、持っている力をどういう方向で発展させるか。毎回、今の力を持続していくのではなく、発展させるかというときに、行政の戦略とすり合わせがうまくできれば、かなり大きなダイナミックな動き方が出てくるのではないかと思うので、私はゾーンごとの研究をしっかりといただければ有益であると思う。

【企画政策部長】

妙案はないが、おっしゃるとおり、地区振興計画や地区の思いとか、いろいろあるので、支所等を通じて、本庁とも連携をとりながら、この地域はどんなふうにしたいとか、あるいは行政にどういうふうにしてほしいというのを情報交換をしながらやっていくのが一番大事であると思う。きっちりした仕組みはないが、それぞれの職員はそういう気持ちで仕事をやらなければならないと思う。市民協働や地区コミを大事にして、大事にしていくということを示しているので、仕組みができるかどうかは別として、いろんな情報交換や助言等を密にやっていく必要があるというふうに、御意見を聞いて感じたところである。

【会長】

まだいろいろたくさんあると思うが、本日もたくさんの御意見をいただいた。また、文言の修正や追加もたくさん出てきた。文言等、修正等については、私どもに御一任いただきたいと思う。

以上で、協議第5号に関する全ての項目について審議を終わる。

そのほかに何かないか。

【各委員】

なし。

【会長】

事務局から何かないか。

以上